

乗り入れ授業の成果と課題について（平成 24・25 年度試行事業）

1 乗り入れ授業の試行事業開始時に想定した効果

平成 24・25 年度の 2 年間、乗り入れ授業を実施する 3 校の中学校に加配講師を配置して、定期的な乗り入れ授業の試行実施を開始した際、想定していた主な効果は下表のとおりである。

	対象	効果
1	乗り入れ授業を受けた児童	中学進学への不安の緩和
2	乗り入れ授業を受けた児童	学習意欲の向上
3	乗り入れ授業担当教員	授業改善
4	小・中学校教員（学校全体）	小・中学校間の情報共有・相互理解

2 想定した効果に関するアンケート結果

（1）中学進学への不安の緩和

新中学 1 年生へのアンケート

旭丘中・上石神井中・八坂中の 1 年生に、中学進学や中学での勉強について不安を感じていたかなどについてアンケートを取ったところ、24 年度・25 年度とも数字のうえでは、乗り入れ授業を受けていた生徒（旭丘小・上石神井小・八坂小出身者）と、乗り入れ授業を受けていなかった生徒との間に、大きな差は見られなかった。

自由意見のなかでは「不安が少なくなった」「早く慣れることができた」「小学校と中学校の授業の違いが分かってよかった」などの意見がみられた。

乗り入れ授業を受けた児童の保護者へのアンケート

旭丘小・上石神井小・八坂小の 6 年生の保護者に、乗り入れ授業で中学校入学への不安が軽減された（される）と思うかどうかについてアンケートを取ったところ、24 年度・25 年度とも「とても思う」「まあまあ思う」をあわせて 6 割以上の保護者が肯定的に回答した。

「中学での授業は、先生や学校に慣れることで不安なく中学へ入る準備ができている」「中学校に足を踏み入れることすらないので、週に一度、授業を受けに行くことで不安等はかなり軽減されている」との自由意見もあった。

(2) 学習意欲の向上

旭丘小・上石神井小・八坂小の6年生に、乗り入れ授業の感想についてアンケートを取ったところ、3～5割の児童が「勉強についていけるよう(中学に行ったら英語を)頑張ろうと思った」と回答した。

「中学生になってからの授業が楽しみ」「勉強はむずかしくなると聞いたから少し不安だけど、しっかりがんばっていきたい」「スピードが速いから中学のスピードの追いつけるように、がんばろうと思った」などの自由意見もあった。

(3) 授業改善

乗り入れ授業を担当した教員へのアンケートやヒアリングでは、乗り入れ授業の成果として、下記のような回答があった。

【中学校教員】

乗り入れ授業の実施によって小学校の既習事項を理解できたり、中学校での教え方が丁寧になったりした。

小学校教員の算数に対する考えや指導方法を把握できた。

小学校での丁寧な指導がとても勉強になる。教員の使い方やできない子への対応など、中学校における指導の参考にもなった。

通年で小学校の授業に参加することで、小学校での外国語活動の内容が把握でき、小学校教員の教え方が理解できた。

算数的思考と数学的思考の違いを理解でき、どのような考え方を教わって中学校に進学してくるかを把握できたので、自分自身が中学で授業を行ううえで大変勉強になった。

【小学校教員】

乗り入れ授業の実施によって、各学年で教えるべき指導事項が明確に理解でき、自身の授業での教え方や意識が大きく変わった。

中学校教員の板書の仕方やノートのとらせ方、発問を通した授業の組み立て方などが、自身の授業にとっても役に立った。

単元の授業構成や1単位時間の指導課程などについて、より効果的な方法を知り、授業改善につなげることができた。

専門性に裏付けされた教材観や指導技術、英語の発音・発声、知識量などの面で参考になった。

自分自身、英語が得意でないので、代わりにたくさんの英語を話してもらえてとても助かった。指導案や教材でもたくさんアドバイスをもらえた。

中学へのつながりを強く意識するようになった。

(4) 小・中学校の相互理解

乗り入れ授業を担当した教員以外の教員にアンケートを実施したところ、「乗り入れ授業によって、学校全体の小中連携が深まった」と回答した教員の割合は5～6割であったが、「乗り入れ授業によって、相手校に関する情報が得られやすくなった」と回答した教員の割合は3～4割にとどまった。

「中学校教員から卒業生の様子を聞いて、小学校でやるべき課題がみえた」「中学校に小学生の実態をみてもらう方法としても良いと思うので、改善策を考えながら継続していくとよい」という意見があった一方、「乗り入れている中学校に進学しない児童が多く、魅力を感じる取組を再考する必要がある」「6年生担任しか関わらず、その他の学年の教員には、よくわからなかった」という意見もあった。

3 第4回小中一貫教育推進会議でいただいたご意見

児童の中1ギャップを解消することに対する効果よりも、小中間の教員の、児童の差異についての意識差を埋めることに関して、乗り入れ授業は非常に効果が高いと感じる。

中学校の数学教員と一緒に1年間、授業を行ったことで、中学校での授業構成やフィードバックのやり方、数学的な考え方ができるような指導などを意識して授業をするようになり、算数の授業に関する授業改善ができた。

乗り入れ授業を2年間受けた生徒たちは、とてもよかった、すごく楽しかったと言っている。

乗り入れ授業をやった教員が次の年に1年生の担任になることができなかつたため、生徒や保護者から、せっかく知っている先生がいるので、できればその先生が学年にいてくれるとありがたかったという意見が出た。

小学校からすれば、国語のこの単元、算数ならこの単元のこのところで乗り入れ授業を行うという見通しの中の授業であってほしいし、そのために事前の打ち合わせが必要である。乗り入れ授業をやればよいというのではない。

中学校と小学校が離れていても、教員の指導として、発問、板書、ノートの指導は、基本としてきちんと押さえていくように、共通の約束を検討していく必要がある。

これから乗り入れ授業の頻度を高くしていくのであれば、授業の指導方法や生活指導について、小中で違うというのであきらめるのではなくて、違うところをどこまで共通して詰めていくかを検討していかなければいけない。

2年間の乗り入れ授業試行実施によって、いろいろな意味でやってみてわかったことがかなり多い。これから小中一貫教育を進めていくなかで、小学校と中学校のさまざまな違いを乗り越えて、乗り入れ授業を続けていき、授業の組み立て方などを工夫していかなければいけないと思う。

6年担任の教員や乗り入れ授業を担当した教員が実感して得たことが、ほかの先生たちにはなかなか伝わっていない。ほかの先生方にも広げていく必要があると思う。

授業の進め方やスピードなどは、特定の小学校と中学校ということではなく、多くの小学校と中学校で同じような状況にある。せっかく乗り入れ授業をやったのに、ほかの中学校に行ってしまうという意見があったが、乗り入れ授業は小学校時代に中学校を知るいい機会であり、ほかの中学校に行ったとしても、練馬区の子どもたちのしんどさをどこかで救ってあげられたのだろうと思う。積極的に乗り入れ授業を取り入れ、小学校の子どもたちに、中学ではこういう生活が待っているということを知らせて経験させてあげることが、非常に大事である。

指導方法や指導内容の工夫が必要になる。中学校は授業を速くやり過ぎるので、子供がそこでギャップを感じている。このギャップを中学1年の段階で緩やかに接続してあげるような研究が中1ギャップを防ぐ大変大きな観点になる。

4 乗り入れ授業の検証の観点

(1) 乗り入れ授業のねらい

定期的な乗り入れ授業の試行実施に際して、複数の効果を期待していた。今後、乗り入れ授業を継続していく場合、ねらいを見直す必要があるか。

< 乗り入れ授業のねらい >

中学進学への不安の緩和

学習意欲の向上

授業改善

小・中学校間の情報共有・相互理解

(2) 乗り入れ授業の実施方法

乗り入れ授業では、さまざまな実施方法が考えられる。それぞれの実施方法に応じた留意点は何か。

< 実施方法の種類 >

乗り入れの対象者

- ・ 小学校教員が中学生を教える
- ・ 中学校教員が小学生を教える

乗り入れの頻度

- ・ 通年（ほぼ毎週）
- ・ 单元ごと
- ・ 単発

乗り入れ授業の主たる授業者

- ・ 中学校教員（主）+ 小学校教員（補助）
- ・ 小学校教員（主）+ 中学校教員（補助）
- ・ 中学校教員（単独）

（3）加配講師（区費）の配置

加配講師配置の必要性

本務校における持ち時数が多い場合、定期的な乗り入れ授業を実施することは困難である。加配講師を配置することで、乗り入れ授業を担当する教員の持ち時数を軽減することができ、持ち時数が多い教科についても乗り入れ授業を実施することが可能となる。

持ち時数が少ない教科がある場合には、時間割の工夫によって、加配講師の配置がなくても定期的な乗り入れ授業を実施できる可能性がある。

加配講師配置の課題

週に3～6時間という少ない時間を担当する講師を見つけることが困難である。練馬区では、週3日勤務以下の非常勤職員には交通費が支給されないため、近隣地域で探すこととなり、さらに困難となった。

乗り入れ授業は、経験年数の長いベテラン教員が担当する場合が多い。講師が見つからない場合、教員経験の短い講師であっても採用せざるをえなくなると、乗り入れ授業者が担当するはずだった中学生の授業を教員経験の短い講師が受け持つこととなる。

加配講師に関する経費（講師3名分）

【24年度予算】

2,690円 × 週13時間 × 35週 + 交通費 = 1,356千円（1名あたり約44万円）

【25年度予算】

2,690円 × 週13時間 × 41週 + 交通費 = 1,664千円（1名あたり約55万円）